

# TUTTI

#残暑お見舞い

DONA NOBIS PACEM 2020 VOL6



標高630m 澄み渡る信州の夏

Photo by Noriko kato

## 現状の練習について、金井先生のお考えを伺いました

h-moll が初めての方は、しっかり音取りをし、曲に慣れる。  
経験者は、あらためて音程、リズム等の吟味をし、完璧を目指す。



プロにとっても難曲であり、「満を持してh-mollに挑む」と言われることが多いです。

ましてアマチュアの経験者にとっては、「何となく歌ってしまい、全ての音をきちんと歌えてはいなかった、」との反省の思いが多いようです。  
今回の異例な状況下でも細部をしっかり吟味練習し、リベンジする機会になれば、今までに無い好機となります。

更に発声面でも、苦手な音、苦手な子音や苦手な母音等克服すべき課題は多いです、、、

何事にも充分、完璧はありません。

原点に返り全てを見直す機会になれば・・・・・・

来たるべき演奏の時に、少しでも完璧に近づく機会になるようワクワクしながら、これからの長丁場を楽しみながら日々研鑽に励みましょう！

金井

(A)  
須藤幸江

団員の皆様

「残暑お見舞い申し上げます」

この夏コロナ感染防止対策と熱中症対策など経済社会活動両立で「新しい生活様式」に慣れるまで大変ですが、合唱はメリットが多いので月2回歌える環境があるのはありがたいです。

私は高齢団員ですが、歌うことで心身のバランスを図り、常に3密避け「移らない移さない」の高意識（注意力）で歌いながらコロナ禍を乗り切りたいと思います

(B)  
岩城雅典

若くて持病が無ければなー。出席者は頑張ってください。

(S)  
石川祐子

TIVEの皆様

ご無沙汰しています。練習に行かなくてごめんなさい。11日から学校が2週間の夏休みに入りました。まあ元々教員は夏休みなんてなかったので、私にとってはいつも通りなのですが…。うちの子どもは、「花火大会もないし、海もプールも行かないし、ドライブにも行けないし本当につまんない！でも土日にママがどこにも出かけないで一緒に遊べるからそれは嬉しい！言っています。自分がやりたいことやれないけど、我慢した分、家族が喜ぶならまあいいかと思うことにします（涙）

11月頃からパート練習ならば行っても大丈夫かもしれないので、11月以降のパート練習の予定がわかったら行こうと思っています。

h-mollは絶対に歌いたいです。演奏会はすぐにできないかもしれませんが、その分じっくり基礎から勉強できたら良いと思っています。どうやってモチベーションを高めるかが問題です。切羽詰まらないと練習への集中力が上がらないのが情けないところです。（あ、私だけかな？）せっかく金井先生が、こういう時こそという練習をしてくださるので有れば、個人個人だけでなく、みんなで目標を持てたら良いと思います。それは練習計画にも関わるとは思いますが。勝手なことと言ってごめんなさい。

(A)  
伊藤佳江

暑いですね。今日は驟雨の後、虹が見られたと、あちこちから写真がupされていきました。実物を見れず残念でしたが、うれしい写真でした。

コロナの終息を願いつつ全員で練習する日が早く来るといいなあと思っています。

いろいろ考えることはありますが、私にとって先生方と団の仲間が大切なことには変わりません。いつも皆さんを想っています。これからもどうか皆さんが心身ともにお健やかでありますように。

(S)  
二葉亜貴

コロナウイルス感染症の影響はまだまだ続くと思われていますが、皆さんはどうされていますか？ 私は、合唱の練習をどうやって再開するのが良いかをTIVEと横浜合唱協会ですらいろいろと試しています。（TIVEでのZoom配信もその一つです。）Zoom配信ではマイクを選定したり、配信に適したカメラを試したり、電波状態の悪い会場でWiFiを使用する方法を考えたりして、最近やっと満足できるZoom配信の目処が立ってきました。また、横浜合唱協会では全体を4つに分けた練習から2つに分けた練習へと少しずつ人数を増やして、現在30人程度の参加人数での練習を始めています。

さて、金井先生が「今まで出来なかったきめ細かな練習をして音程を整えていきたい。」と仰っていただいています。とてもありがたいことと思います。この取り組み方に共感してもらえの方に声をかけて、TIVEの仲間を増やせないかを思案しているところです。このためにはバッハの口短調ミサはいい素材だと思います。PRするにも今までのようなチラシでのPRはしばらく難しいので、SNSなどのグループ配信などを検討しています。皆さんもよい方法があれば教えてください。バッハの口短調ミサ曲を丁寧に組みたい人にPRして仲間になってもらいましょう。そのためにも口短調ミサのお勉強資料も進めないといけませんね！頑張りま〜す。

横浜合唱協会では2021年10月以降で第71回定期演奏会を計画することにしています。まだ演奏会が実現できる確証はありませんが、合唱団としての目標を共有するのが良いと思い、2021年夏以降の世界を想像し、ポスト・コロナウイルス感染症の復興の過程で、世界の平安を祈るメッセージを演奏会プログラムに取り入れることを念頭において演奏会の企画を作ったりしています。

あれ？仕事はどうしてたっけ？ （テノール 馬岡）

(T)  
馬岡利吏

(A)  
清遠佳澄

あまりの暑さに毎日溶けそうになっています。今までのようには出かけられないので、近場で買い物をしたり、散歩をしたりして過ごしています。合唱の方はまだ不安がありますので、残りの練習はできるだけ参加し、曲を掴んでいきたいです！

(A)  
横山雅子

コロナ禍でのこの猛暑  
皆様お元気でお過ごしでしょうか？  
気がつくとも立秋も過ぎ、引きこもっているうちに、8月も終わろうとしています。いろいろな事に気力が薄れ、のちに思い返した時に何も残らない令和2年になりそうで、最近ちょっと慌てています。  
練習への参加はもうしばらく見合わせたいと思いますが、せめて、自主練習は頑張りたいと思っています。  
まだまだ暑い日が続きそうです。皆様くれぐれもご自愛ください。

(S)  
金子幸代

毎日の暑さやマスクや消毒の煩わしさには、ずいぶん慣れたけれどやっぱり大変ですね。皆さまはどんな工夫をしてお過ごしですか？  
私はアイスパンを食べて元気をキープしてます。大好きなパンにアイスクリームをIN、ただそれだけなのですが美味しいんです。暑い日のお昼にぴったり♡  
しばらくお休みしてましたが、秋からパート練習に参加する予定。皆さまよろしくお祈りします。

(B)  
沢田高志

残暑お見舞い申し上げます。先日のパート練習では、金井先生から目からうろこが落ちるようなご指摘を頂きました。個人レッスンのような贅沢な時間で、参加しないのはもったいない！感染防止には、家族以外の人との会食を避けることが第一です。皆様お元気でお過ごしください。

(S)  
中野光子

皆様へ  
猛暑お見舞い申し上げます。本当に暑いですね。  
自分の受診と仕事で病院通いの他、この1か月は腰と膝を傷め、毎日整骨院に通院しています。それ以外はPCとにらめっこの仕事漬けの毎日です。

今年はハイビスカスに魅せられて4株も求めました。美しい花が咲きますが、1日でしぼんでしまうとは知らなかったです。それから太陽に向かって咲くので自宅からは花を後ろからしか眺められないのです。これも残念！

猛暑の中、庭の草花の水やりが大変ですが、1日怠けたら枯れてしまうでしょうから頑張っています。

(T)  
高戸祥隆

委員の皆さま、いつも団の為にご努力いただき心より感謝申し上げます。今月8日に4か月ぶりに再開後の男声パート練習に参加し、4時間に亘りテノール2、バス1の3名で、金井先生のご指導をまるで個人レッスンのようにたっぷり受け、とても新鮮で充実した練習となりました。あらためて教えられた点が多く、今になって初めて気づかされた点も見つかり本当にレッスンを受けてみて良かったとつくづく思いました。一方で、石塚さんからの録音を皆さん聴いていただいたら分かると思いますが、自分が如何にいい加減に歌って音程が正確でないか、思い知らされました。録音は正直で、全員マスクしているのに馬岡さん、沢田さんの美声が響き渡りまるで二重唱のようで、時々不確かな音程の私のか細い声が邪魔しているという、非常に厳しい現実には遭い、こりゃあもう一からやり直し！と思い知った次第です。今後は口短調ミサを慣れているかといっって何となく歌うのではなく、一音一音をしっかり歌うよう、心を引き締めてやり直そうと思っています。

いつも話が長くすみません。私は前号で、自粛はするけど思考（心）までも自粛するな！と言いましたが、この重苦しい状況の中、今まで当たり前のことであった何でもない小さいことにでも喜びを感じるよう意識し、小さくてもいいから喜びの数を出来るだけ増やそう、と考え始めました。またこんな状況だからこそ一日一日を、出来るだけ笑顔でいよう、無理やりにでもいいから明るい顔をしてみよう、そうしたら自分も周りもちょっとは元気になる！暗い顔をしたりイライラしたりしていても損なだけ、と考えるようにしています。最近、グーグルアースで、幼かったあの頃、青春を思いっ切り謳歌し輝いていた時、仕事で思う存分活躍していた時代など、その頃暮らしていたそれぞれの土地・場所・住んでいた家の辺りまで見つけ出し、今まで過ごして来た長い人生を懐かしく振り返って、多少とも元気をもらっています。

テノール：高戸（たか爺）

(S)  
長瀬靖子

暑い日が続きますね。ありがたいことに元気に過ごしています。TIVEの練習もそうですが、この夏はコロナの影響で、いつもこの時期に食事会などを行っている友達に会えなかったのは、ちょっと残念でした。やり方を工夫しながらの新しい生活と、新しい練習と、楽しんでいければよいと思っています。

委員の方にはいつも感謝しております。お疲れの出ないように、無理の無いようお願い致します。皆様今後もよろしくようお願い致します。

皆酷暑の日々も夕方にはおさまり、秋の虫の声を聴きながら書いています。

この、コロナ禍の中、会社の業務は完全にテレワークになって、5ヶ月。ありがたいことに仕事が会社人生で一番に近いくらい忙しくしています。

そんなときに両親との同居の話が出てきて、マンション売却・仮住まいに移転、その間に娘がまた入院していて、さらにPTAにも入ってしまい、なんで全部今なのー?!という状況です。

そんな中、仕事中のBGMはやはりh-moll比率高め。Sanctusの希望の鐘が世界に響き渡る日を祈るばかりです。

ところで、忙しい日々も、ひとつひとつ出来ることを進めていけば、いつかは落ち着きます。

10月からは参加出来たらと思っています。

皆様も健康に気をつけて！

(S)

浜崎千鶴

(A)

加藤典子

残暑お見舞い申し上げます。

8/13～16に故郷の信州に帰省しました。

私の実家は四方を山に囲まれた静かな山村で、日中外出してもスーパー以外では滅多に人に会うこともなく、「三密」とは無縁な所です。それなのに事前に帰省の相談をしたところ「できれば今回はやめておけ。来るならうんと短くしろ」と86歳の父の口から聞いた時には悲しくなりました。来年もまた元気な姿に会える保証はないのにねと。

withコロナでソーシャルディスタンスは取っても、心の距離までは離さないようにしたいですね。

田舎では、夜は虫とカエルの大合唱で眠りに落ち、朝は鳥のさえずりで目覚めます。虫とカエルの大合唱の録音データも載せたかったのですが、電子版Tuttiでは無理とのことでしたので、LineのtuttiのほうにUPしておきます。Lineグループに入っていない方で聴いてみたい方がいらしたら、加藤までご連絡ください。

では、9/12に皆で元気に顔を合わせて口短調を歌うのを楽しみにしています。



(A)  
山村雅子

皆さんお元気ですか？コロナ発生から外出が難しく、家と近所の公園と生活必需品を購入するためのスーパーとホームセンター、そして職場が生活圏です。生協やアマゾンの配達に頼りスーパーも避けている状況です。

学校ではここ1か月、「対策をすれば歌・リコーダー・鍵盤ハーモニカもOK」になり、マスク着用の上小さな声で歌ったり、楽器をやるときは広い音楽室全体に広がってやっています。子ども達同士の話し合い・教え合いは許されず、時代と逆行した授業をしています。近隣でコロナが発生し出しているのも、もしかしたらまた元にもどり「歌×リコーダー×鍵盤ハーモニカ×」になるのではとヒヤヒヤしながら授業をやっています。

そんな中、高学年で、リコーダー・鍵盤ハーモニカを使わずに、学校中から集めたキーボード・木琴・鉄琴・打楽器・ピアノでクラス合奏を取り入れました。殆どの行事が中止になり、友達同士で遊ぶにも制約のある子ども達は、合奏をとっても喜び、生き生きと取り組んでいました。クラス全員で何かに力を合わせて取り組むことが数カ月ぶり、音楽が苦手な子でさえ一生懸命練習にとりくみました。担任の先生に発表するだけの合奏でしたが、「子供達が生き生きとしていて良かった！」と先生方も喜んでくれました。

コロナの影響で、音楽活動そのものが大きな制約があり苦しい中ですが、学校のなかで、「クラス全員で一生懸命生き生きと取り組める」そんな活動ができたのは音楽が唯一だったんじゃないかな、とも思いました。言葉での対話ができない分、お互いの音を聞いて音で対話できたな、と感じました。

授業が終わる度、キーボードとマレットと子供達が座った椅子全ての消毒を20分以上かけてやるのが大変ではありましたが、少しだけ報われた気がしました。8時間勤務うち、多いときは1時間半は消毒作業の毎日です。これはどこの職場でもきっとそうなんだろうなと思いながら頑張っています。

コロナだけでなく、熱中症にも気をつけないといけない時期です。音楽室にはクーラーがないので、8月の授業は灼熱です(°o;)皆さんで気をつけていきましょう！

(S)

高原智子

NKHのTVで、「証言と映像でつづる原爆投下・全記録」という番組を見ました。その中でとても心に残ったものがありました。それは、長崎の診療所で治療にあたった医学生濱清の手記の一部でした。

長崎では浦上天主堂のすぐ近くに原爆が落ちたので、その診療所の患者が皆クリスチャンだった。1人で起き上がれないのに、毎日夕方になるとお互いに助け合って起き上がり、お祈りをしたのだそうです。

その光景に、こんなに悲惨な状況を与えた神になぜ彼らは祈るのか？と彼は怒りを思った。

しかし、それはやがて原爆に関わった人々、すべての人々の罪を許すため祈り。

崇高な祈りを見たのではないかと思えるようになった。というものでした。

更に、美しかった1枚の写真がありました。

被曝した女性が、吸う力がなくなってきている赤ちゃんに母乳を吸わせる母子の姿。とても清らかで美しかったです。



祈りとは何だろう。とふと考えた最近でもありました。

先生、皆さま、残者お見舞い申し上げます。

新型コロナウイルスにより日常生活が制限される事態から概ね半年、猛暑も重なりストレスMaxな今夏ですね。母の施設もずーっと面会禁止が続き、感染すると命取りだからとは理解はしつつも、なんだか今の状況に疑問や焦りを感じ始めてます。きっと同じ思いをしている人は沢山いますね。仕事の中に目にした次のメッセージ、ちょっとだけ前進モードに気合が入りました。お堅い文面ですが、勝手にシェア。歌も日常もゆっくりじっくり奥深く、頑張ってみよーかな？！

『「緊急時」である。こういうときは、できない理由を並び立てるのではなく、「できるとしたら何ができるか」と考えてみるべきである。できない理由を並べて「何もしない」ことが正解であるはずがない。(中略)緊急時に平時のルールにこだわって、この本質を見失ってはならない。(中略)制度をつくり変えることよりむずかしいのが、人のマインドセットを変えることである。(中略)しかし、いま、私たちは思い知ったはずである。変わる必要があり、変わらねばならないことを。(中略)自分の持ち場で、それぞれが「決断」と「覚悟」をもって、理想に向かって前に進んでいこうではないか。』

(A)

石塚博子



コロナ下においてもいろいろ工夫してTIVEのために動いてくださっている委員の方や縁の下で支えてくださっている方々本当に感謝です。演奏会は少し遠のきますが歌えることは嬉しいですね。「ロ短調」の舞台を夢見てコッコツ頑張りたいです。

(A)  
中右絢子

アルト中右さん主宰  
『バティック作品展』のご案内  
＜第9回テーマ＞スメン模様

- 開催期間：8月26日(水)▶8月31日(月)  
AM10時～PM18時（最終日はPM16時まで）
- 開催会場：大倉山記念館ギャラリー  
東急東横線 大倉山駅より徒歩7分

素敵な作品に出会えること間違いなし！  
お近くの方はぜひオススメです♥



(A)  
持田忍

ロ短調ミサ曲 私にとっては、オタクに楽しめる曲です！  
っていつもオタクじゃねーか！と言うツッコミは、さておいて。  
大好きな、クォ・ヴァディス の小説のイメージと重なって、最後のドナノービスは、サンピエトロ大聖堂の屋根の上から、ずーっと地平線の彼方の広がりを見ているような気がします。  
以前、金井先生の指揮で、ロ短調ミサを歌った時に、聴きに来て下さったお客様から、この絵が見えた！と、ポッティチェッリの、神曲 のベアトリッチェと天使のスケッチを、コピーして頂きました。  
早く、全曲の練習が、出来ますように。

(T)  
奥村直登

お久しぶりです。上長の娘さんが少年野球の役員やってて、土曜日フルに休まれてしまいます。なので、まったく土曜休みが取れなくなってしまい、合宿以来ご無沙汰かけてます。日曜は基本お休みなので、フォローアップLessenがあればいいなと切望しています。本当に長い間お休みしてしまい申し訳なく感じるとともにご迷惑をおかけします。上長の娘さんの野球が終わるまでもうしばらくお待ちくださいね。

(A)

中川智津子

梅雨が開けてすっかり夏モードですね。

皆さんの体調はいかがでしょう？

先日久々に練習に出て、皆さんのお元気そうな姿が見れたのがとても嬉しかったです！新様式ですが久々に思いっきり声も出せて、4声揃ったハーモニーを体感した瞬間、「やっぱり合唱っていいなあ」と改めて思いました。こんなご時世だからこそ、「Dona nobis pacem」と心から祈り、歌っていきたいです。

また次の練習を楽しみにしています。

(T)

殿村健朗

ご無沙汰しております。練習参加失礼させていただいております。東京でのコロナの状況を見ると、自分自身東京に行くのはまだ不安があります。もちろん都民全員が「保菌者」ではないのですが。

当地（宮城県北部）では私が知る限りでは合唱の練習再開は全体にもものすごく慎重（神経質？）です。前にも書いたかもしれませんが今年度の合唱祭関係はすべて取りやめになりました。自分が団長をしている合唱団では当初8月3日から練習再開の予定でしたが延ばして24日から再開の予定です。ただ今回は半年ぶりなので顔合わせ程度を考えています。先生も新しい楽譜を用意してあるとのこと。それも楽しみ。この半年団員への通信では「人と会う時は3密は必ず避けましょう、でも我々の歌う心、歌いたいという気持ちの“3密”は守りましょう」と皆に言ってきました。どの位わかってもらえたかわかりませんが。

さて8月7日（金）7月から練習を再開した男声合唱団が市役所のロビーでミニコンサートをしました。お客さんと向かいあうのではなく横を向いて。（お客さんは我々の横顔を見ながら聞く）もっとも3密を避けるため宣伝はあまりしなかったのが少なかったです。曲は古関裕而作品集を中心に6曲ほど。当地の小中学校の校歌のほかは「高原列車は行く」、「長崎の鐘」他。当日の写真を添付します。暑い日が続いています。またZOOMだけでなく直接会える時を楽しみにしています。（8月22日記）



(S)  
生盛知子

## 「まだまだ元気で挑戦だ」

いくもりとものこ

かつての私の職場では、時々、本部の偉い人を招いて講話を聴いたりしていた。ある時ベートーベンが大好きな講師が来て、「先人はいつ仕事をしたか」というテーマで、私みたいな年寄りが元気になる話をしてくれた。ベートーベンが30代初めに聴覚の喪失という不運に見舞われ、以後、40代の初めまでの約10年間に創作の充実期を過ごして、二度目の危機～不滅の恋人に宛てた1通の書簡を永遠に封印し、(投函されなかったとみられるこの手紙は死後、遺品の中から発見され、その名宛人の特定が伝記作者達の格好の研究テーマとなる)以後6年もの間、作品らしい作品を書かず、危機を乗り越え、大曲への取り組みを再開したときには、47歳半ばになっていた。「交響曲第9番合唱付き」や「荘厳ミサ曲」は、その後、56歳で没するまでの間に仕上げられた。学問や芸術の世界には人生の後半ないし終盤に入ってからその人の最高傑作を仕上げた先人が多い。ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」は50代、ミケランジェロの「最後の審判」は60代、ゲーテの「ファウスト第2部」は70代から80代にかけての作品である。これらの事実は、我々に、人間の創造性とは、元来そういうものなのだと教えてくれる。問われているのは、神懸かり的な一瞬の閃きではなく、長期間にわたり持続する意思と、その実行を可能にする心身の健康なのだ。人生80年時代といわれる今日、我々のようなごく普通の人間にも、それぞれの「畢生の大作」を手がける機会が、かつてなく大きく開かれている。「大作」は望むべくもないが、とにかくぼけないように、と願っている、と講話の内容はそんな感じだった。

再演奏ということについて、自分ではそう深く考えてはいなかったが、「指揮者アーノクール最後の来日」と題した記事を読み反省させられた。半世紀以上にわたり、古楽界だけでなく、クラシック音楽界全体をリードする指揮者のニコラウス・アーノクールは「演奏は常に挑戦だ。どんな作品でも勉強してしばらく時間を空け、再度取り上げる時、全く新しい姿勢でやります。だから演奏は常に新鮮なのです。」と記者会見で自らの音楽を語ってる。私が聴いたのは「ミサ曲 口短調」で合唱はアルノルト・シェーンベルク合唱団、演奏はもちろんCMW(アーノクールが創設したオーケストラ~Concentus Musicus Wien)。このときプレトークで音楽評論家の奥田佳道氏は、「J.S.Bachはプロテスタントなのに、何故カトリックのミサ曲を作ったか、というのはわりとよく取り上げられる疑問」と言い、そういったことを超えて「人生を歩んでいくとはこういうこと」という意味で多くの曲を作ったのでは、と解説していた。ちなみに、このコンサート最後のDona nobis pacem は圧巻で、拍手さえ憚られるほどの感動が会場を覆い、聴衆はしばし沈黙し、やがて嵐のような拍手という感じで終わった。

この文は10年ほど前に書いたものだが、あれから憧れの口短調を自ら歌うことができ、また再演に向かって練習できていることに私は神の恩寵を感じ、深く感謝している。

(S)  
葛西真理

私の最近の音楽的な近況は、

①ちょっと前ですが、鏑木さんやとみーが参加された40声のモテットのリモート録音に参加してきました。出来上がりは40声(参加者は60名程度)ですが、録音はお手本の鏑木さんの声を聞きながら一人で行うので、結構しんどかったです😓録音録っては聞いては消してを繰り返して悩みましたが、自分の声と向き合うよき機会になりました。

②オーディション番組にはまり、虹プロジェクトをずっと追いかけて観ていました。メンバーのボイトレセッションなどもあるのですが、それはそれは熱心に一日中練習してるのですよ。我が身を振り返り、頭が下がりましたし、私もがんばろう！と、元気が出ました☀️

③プライベートはあまりいいニュースはなく、相変わらず会食は制限されていますし、家族の体調管理と感染対策もあって、家族と職場以外で話す機会があまりない！

口短調は全パートがイエスのもとに集い、調和し、生きている喜びを現し平和を願う素晴らしい曲です。今、これほど困難で、実現したらどんなにか素晴らしいと思われる曲のうちのひとつではないでしょうか。TIVEが東京で、いえ、日本でコロナ以降初の口短調演奏会を実現できますように、祈っています！

練習がんばって！

熱中症に気をつけてくださいね😓



## 🍎 委員会より

練習を再開して2か月目になりました。

新型コロナウイルスの収束にはなお時間がかかりそうですので、当面は感染防止対策を取りながら緑コミュニティの日は全体練習、その他会場の日はパート練習のパターンで練習を続けて行く予定です。演奏会計画を立てるのも難しい状況下ではありますが、何とか2022年秋頃には実施したいと考えています。

2年かけて口短調ミサをやるからには、「少しでも完璧に近い演奏会を目指して」今からしっかりと準備していきましょう。

金井先生は、少人数によるパート練習では呼吸法や子音、母音の練習、更にはパート内で音色や音程を合わせる練習など、これまでやりたくてもできなかったような練習にじっくり取り組んでいきたいと意欲を示しておられます。私たち団員も今まで向き合えなかった自分と向き合い、ステップアップするチャンスと捉えて、今の練習を積極的に有効活用していきましょう！

また、口短調ミサの演奏会に向けては、一緒に歌ってくださる仲間をもっと増やしていく必要があります。皆さまの周りに口短調を歌ってみたい方がいらしたら、ぜひともお声掛けをお願いいたします。

追記)

ご家庭のご事情で休団されていたアルト久保さんが、残念ながら退団されことになりました。長年一緒に歌ってきた仲間を失うことは、大きな悲しみです。久保さんのご多幸をお祈りするとともに、また一緒に歌える日が来ることを心から願っています。



## 🍎 今後の練習予定

須藤委員からの全体メールまたはTIVEホームページにてお知らせ致します。

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~tive/>



## 🍷 新掲載 『J.S.バッハとライプツィヒ』

ヨハネ受難曲、マタイ受難曲、そしてh-mollなど傑作が生まれたのは、バッハがライプツィヒで活躍した時代。そこで、ライプツィヒで活躍の場を得るきっかけなどを、まとめてみました。

### ＜バッハの家系は中部ドイツの音楽家一族＞

1685年3月21日、テューリンゲン地方の小都市アイゼナッハ(アイゼナハ)に8番目の子(末子)として生まれました。ライプツィヒへ赴任する以前は、アルンシュタット、ミュールハウゼン、ワイマール、ケーテンといった都市で、主に教会や宮廷に仕える音楽師として活動していました。

### ＜転機が訪れる！！＞

ライプツィヒのトーマス教会音楽監督(トーマスカントル)ヨハン・クーナウが亡くなったため、市参事会は初め当時の有名音楽家ゲオルク・フィリップ・テレマンと作曲家ヨハン・クリストフ・グラウプナーを候補として選出しましたが、二人とも辞退しました。そのため、後にJ.S.バッハが指名を受けました。

### ＜J.S.バッハ採用試験を受ける！＞

バッハはケーテン宮廷に仕える楽長という特権的身分から、ライプツィヒで市民相手の音楽監督へと転職することに一時難色を示しましたが、その後1723年2月にその採用試験を受け合格！！同年5月5日(38才)に市庁舎でトーマスカントルとしての雇用契約書に署名しました。

### ＜役職は……＞

トーマス学校の音楽教師としての職務の傍ら、ライプツィヒにおける教会音楽・市参事会音楽・大学音楽の3つを統括する、いわば「ライプツィヒ市音楽総監督」ともいうべきものでした。

### ＜人生の最後まで、ライプツィヒで過ごす＞

最初の数年間(1723~28年)、教会暦にして5年分のカンタータ(1年当たり60曲)を作曲しました。音楽監督就任と同時に引き継いだトーマス教会少年合唱団に対しては不満だらけだったようです。

やがて、市民との音楽を交わし、世俗のカンタータを作曲することに。1729年春、バッハはかつてテレマンが創設した合奏団コレギウム・ムジクムを受け継ぎ、この団員とともに週に1度市内のコーヒー店ツィンマーマン・カフェハウス(Zimmermannsche Kaffeehaus)にて演奏し(→このカフェが、今はなく記念碑が残るのみ)、コレギウム・ムジクムは大学生を中心とした演奏団体で、1741年までその指導にあたりました。

演奏会は毎週ツィンマーマン・カフェハウスで開かれました。バッハはそのために世俗カンタータなどの作曲に励むようになります。「農民カンタータ」や「G線上のアリア」で有名な管弦楽組曲はこの頃の作品です。

### ＜ラテン語の曲を作る＞

ライプツィヒに着任後10年ほどして、教会カンタータに新しい作品が見られなくなる頃から、ラテン語に作曲することが増え始めました。ライプツィヒでの市参事会等との

確執で、自らの地位を高めるためにドレスデン宮廷にも地位を得たいと言う狙いがあったようです。ラテン語の典礼文に作曲することによって、自らの作品を恒久的に残していくことを目指したのかも知れません。

プロテスタントの環境で育ったバッハですが、カトリックの宮廷との関係も持っていました。ルターがドイツ語に翻訳した聖書を深く読み込み、結局は宗派を超えて聖書にあるキリスト教に帰るといったことだったのでしょう。年齢と共に、プロテスタントとカトリックの隔たりに寛容になった彼は、キリスト教に基づいた内面の平安の祈りに行き着いたのかもしれない。(諸説様々な研究がなされていますので、個々色々検索してみてくださいませ。)

そして、遂に彼の最高傑作と言われる4部からなる『口短調ミサ曲』が完成します。究極の祈り。『口短調ミサ曲』の最後は、Gloriaと同じメロディーで、感謝から始まり、それが純化して信仰に発展します。

1750年に亡くなるまでトーマス教会音楽監督であったバッハの任務は、市内教会での礼拝や特別な教会行事だけでなく、市の音楽総監督として様々な非教会行事の世話役ともいうべき役割も果たしていました。更には多くの町から新設オルガンの奉献式の演奏を依頼され、これに出向いてました。

### <失明し天国へ>

その後1749年の脳卒中と思われる発作が原因でほとんど失明状態となり、1750年春に目の手術を受けましたが、回復することはありませんでした。1750年7月28日に65歳でこの世を去りました。

### <日常はまるで職人のハードワーク>

当時の教会音楽家は、自分の作品による何年分かの教会音楽ライブラリを持つのが普通だったので、それを揃えるための着任から数年間のバッハの仕事ぶりは凄まじいものだったと想像されます。

月曜～火曜で作曲して総譜作り

水曜～木曜は家族や弟子を総動員してパート譜を作成、できたところから練習開始

土曜日にはリハーサル

日曜日の朝には本番

トーマスカントルは演奏当日の礼拝に関係する聖句から歌詞を選んで作詞家と協議したり、楽団員や合唱団員を確保したり、コラールの選択にも関わっていました。練習の仕上げ、翌週のパート譜の製作とチェック、三週間後の主日のためのカンタータの作曲、来月の礼派のための歌詞やコラールの聖職者との相談、再来月分のための構想など、何週間分もの作業が並行で取り掛かっていたようです。すでに作曲されたカンタータの手直しや再演、他人の作品の演奏も行われました。合唱団員は毎年入れ替わるために練習～演奏は毎回最初からやり直し。待降節にはクリスマスの音楽、四旬節には聖金曜日のための受難曲、服喪期間には葬送音楽の準備。超ハードワーカーな日々だったんですね。

### <バッハの死後>

当時の人々にはバッハの真価が理解されず、彼の音楽はやがて忘れられてゆきました。メンデルスゾーンにより、彼の音楽が再評価され現在に至ります。

当時の埋葬も手厚いものではなく、遺骨がトーマス教会に納められたのはバッハの死後200年経った1950年のことでした。

(文・写真：Tomoko Takahara)



## TIVE Dairy



### 第17回定期演奏会 J.S.Bach 「ミサ曲口短調」プログラムより (2013年7月@第一生命ホール)

(前略) 本年当団は設立15周年を迎えました。(中略) 15年間の成長の証を刻むべく、一昨年秋の前回演奏会を終え、団員増強と技術向上に努め、今回バッハの「ミサ曲口短調」を取り上げることとしました。

声楽・器楽双方に高度で多彩な音楽書法が用いられ、バロック音楽の集大成で宗教音楽の最高峰と称される「ミサ曲口短調」は、過去に例を見ぬ重厚壮麗な構成を持つ名曲かつ難曲ですが、今我々全団員はこの大曲に挑戦し歌える事への感謝と歓喜を胸に秘め、一人ひとりが積み重ねた努力を持ち寄り、全員で聴き合い感じ合い、最高の演奏を実現しようと勇気と覚悟を持って臨みます。ホールに満ちるハーモニーも必ず静寂の中に消えてゆきます。消え入った音色は二度と蘇らず、演奏とは一期一会の真剣勝負です。

今回の演奏会も、音楽監督金井先生のもとに、日本を代表する古楽アンサンブルLFVのメンバー並びに現在ご活躍中のソリスト、オーケストラの皆様と共に、ご来場いただいたお客様に向けて、バッハが目指した普遍的な美と調和の世界(音楽の和)を表現したいと心から願っています。

一期一会の演奏なればこそ一瞬一瞬に全霊を込め、皆様の心と記憶に残る演奏会となりましたこの上ない慶びです。(後略) (草稿 故 河合元団長)

昨年惜しくも若くして天に召された河合元団長ですが、9月に一周忌を迎えます  
月日の流れの速さを感じます